

平成 2 1 年 度

教 育 指 導 の 計 画

(最 終 反 省)

大 阪 市 立 天 王 寺 中 学 校

1. 学校経営の重点

目 標 : 「豊かな心」と「学習意欲」を育み、基本的な生活習慣を身につけさせ、たくましさ自立心を養う。

取組内容（指標）	達成状況	
校内研修を充実させ、指導法の改善や指導力の向上に努め、「確かな学力」の育成を図る。	A	A
基本的な生活習慣や心身の健康を基盤に、学校行事や奉仕活動、体験活動を通して「思いやる心」や「感動する心」「感謝する心」を育てる。	A	
国際交流活動を通して国際理解教育を推進し、互いの違いを認め合い、個性を尊重し合う集団を育てる。	B +	
家庭との連携を通して子ども達の理解を深めるとともに、地域との連携を通して学習環境を整え、一人一人を大切にしたい教育を推進する。	A	
結果と分析		
<ul style="list-style-type: none"> ・「授業力アップサポート事業」を活用し、校内授業研究を充実させることができた。研究授業は1学期に英語科、2学期に数学科・家庭科、3学期には道徳で行った。 ・行事を通じて「感動する心」を育てることについては、一定の成果が得られた。 ・今年度は、インフルエンザの影響で、派遣や受け入れはできなかったが、国際交流委員会を中心に、スイスや中国の姉妹校に送る作品を作り、交流活動を行った。 ・地域・保護者との連携のもと、生徒一人一人を大切にしたい教育に努めている。 		
次年度への改善点		
<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究については、昨年より充実したものになった。今後は更に深化・充実させたい。 ・「思いやる心」等、「心」を育てる取り組みは、継続して行う必要がある。 		

2. 学習指導の重点

(1) 教科

目 標 : 自ら学ぶ意欲を高め、基礎学力の定着を図る

取組内容(指標)	達成状況	
基礎・基本の定着、学力の向上を旨とし、指導法の工夫を図る	A	A
学習意欲を喚起するための学習材の開発に努める	A	
支援体制の充実を図り、主体的に学習に取り組める工夫を図る	A	
夏休みを利用したの補充学習の充実に努める	A	
・		
・		
結果と分析		
少人数授業やT.T、習熟度別指導の導入、夏季休業中の補充学習の実施など、支援面での充実を図り、「確かな学力」の育成に努めた。		
次年度への改善点		
支援体制の充実、学習材の開発など、興味・関心を喚起し、自ら進んで学習に取り組むことができるための工夫を図る必要がある。		

(ア) 国語

取組内容（指標）	達成状況	
教科書教材を中心に、内容を理解し、自分の意見を整理し、表現する力を養う	A	A
全学年で習熟度別授業、2年生で選択授業を実施する。個々の能力に応じた多様な教材を用いて、国語に対する認識を深め、豊かな表現力、思考力、想像力、言語感覚を育む	A	
結果と分析		
<ul style="list-style-type: none"> 教科書教材を用いて読解力を高めるように努めたが、感想をまとめたり、意見を整理する力はまだまだ弱い 習熟度別少人数授業、選択授業では、書写、文法、漢字、古典、入試問題など多様な教材を用いて個々の学力に応じた指導を工夫した 		
次年度への改善点		
基礎学力、応用力ともに身につけさせるための教材開発をさらに進めていかなければならない。		

(イ) 社会

取組内容（指標）	達成状況	
身近な問題を教材化することで、生徒の興味関心を引き出し、基礎学力の充実と定着を図る	B +	B +
グラフ図表などの読図・作図や統計処理等の基礎技能の習得を図ることにより、深く考え表現する力を養う	B +	
結果と分析		
<ul style="list-style-type: none"> ノートや課題プリントの指導を徹底することで、基礎学力と読図の基礎技能は身につけてきている 自分の考えを発言することが少なく、受け身の学習となっている生徒がおり、学習意欲を引き出す工夫がいる 		
次年度への改善点		
課題学習の成果や自分の意見を発表する活動を授業に取り入れ、学力と表現力の向上を図る。		

(ウ) 数学

取組内容（指標）	達成状況	
教科書と並行して小テストやプリント学習を実施し、基礎学力の定着と充実を図る	A	A
1年生、2年生では、T・T、少人数授業や習熟度別授業を実施。3年生では、選択授業を実施。より理解できる授業づくりを試み、学力の向上を目指す	A	
結果と分析		
<p>単元ごとのプリント教材の活用等により、基礎学力、特に計算力が定着してきた。また、授業形態の工夫により、個に応じた学習が進み、問題解決の機会が増えている。</p>		
次年度への改善点		
<p>さらに、生徒の学ぶ意欲・関心を高めるような教材、プリント等の工夫を進めていく。</p>		

(エ) 理科

取組内容（指標）	達成状況	
実験・観察を中心とした学習において、興味・関心を喚起し、学力の充実につとめる	A	A
原理・法則、ものの成り立ちについて身近なものに目を向けさせ、活かせる工夫を図る	A	
結果と分析		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な理科の語句、用語の指導に努めた ・ 実験、観察、自作標本や写真、新聞などを利用し興味、関心をはかり、学力の充実に努めた 		
次年度への改善点		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 興味関心を持たせ、生徒へのきめ細かい指導をすすめるためにもなお一層の情報の収集と指導方法の工夫を考えていく必要がある。 		

(オ) 音楽

取組内容（指標）	達成状況	
基本的な記号・理論などを学ばせながら、興味関心を持たせるために工夫、精選した教材で合唱などに取り組むことにより表現の技能や鑑賞の能力を高め、豊かな感性を育成する	B	B
結果と分析		
<p>基本的な記号などは、音楽コンクールの課題曲などを使って、知りたい時期をのがさずに指導しているが、まだまだ学習時間が充分とは言えない。</p> <p>歌唱においては、地声の少ない、のびやかな発声が定着してきており、合唱のテクニックなどは、かなり高まってきている。</p>		
次年度への改善点		
より一層の教材の精選と基本的事項の学習については、その指導方法や時期的な工夫も必要である。		

(カ) 美術

取組内容（指標）	達成状況	
教材・教具を工夫し、表現の基礎的能力の定着を図る	B	B
美術作品などについて、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を育てる	B	
結果と分析		
<p>形、色、材料で表す感覚や基礎的技術の定着に努めた作品を通してお互いのよさや個性を理解しあった</p>		
次年度への改善点		
生徒一人ひとりが自分なりに自信がもてるように指導方法を工夫する鑑賞の機会を増やす		

(キ) 保健体育

取組内容（指標）	達成状況	
集団行動の大切さを身に付けさせ、あらゆる学校生活に生かせるようにする	A	A
生徒一人一人の体力と、各種目の技能を高める	A	
リーダーを中心に協力し助け合う態度を育てる	B	
結果と分析		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団行動の意義を理解し、学校生活の中で生かせてきている ・ リーダーを育てきれていない 		
次年度への改善点		
集団行動を、より学校生活に生かしていけるよう努め、信頼されるリーダーを育成し、協力・助け合える集団を目指していく。		

(ク) 技術家庭科

取組内容（指標）	達成状況	
ものづくりを通し、自ら学び工夫する意欲を高める	B	B
結果と分析		
<p>工具・機械の正しい使い方を理解し、シャッターケースの製作、キーホルダーの製作を進めることができた。木材加工では、両刃のこぎり・ドレッサー・ベルトサンダー・卓上ボール盤・糸のこ盤を安全に使用することを実習した。</p> <p>住居の環境の整備と住まい方、消費生活、環境を考えた生活の学習を進めることができた。また、調理実習を行い、調理の手順を学び、食育の大切さを理解した。</p>		
次年度への改善点		
<ul style="list-style-type: none"> ・ ものを大切にする啓発をしっかりと行い、安全第一で実習に取り組める心を養う ・ 実習授業を取り入れ、生徒たちが体験し、学べる環境をつくり、実習器具、道具を正しく安全に使用できるようにする 		

(ケ) 英語

取組内容（指標）	達成状況	
基礎学力の定着に努める	A	A
英語に対する興味・関心を高めるよう、工夫を図る	A	
結果と分析		
題材や場面に応じて補助プリントやカード等を作成・活用したり、小テストの実施により基本文の定着を図った。また、ALTとの授業では、生徒の発話性や興味・関心を高めるよう努め、効果を上げた。学校診断アンケートからも上記許可目標をおおむね達成できたことがうかがえる。		
次年度への改善点		
今後も生徒の主体的な学習を促せるよう、系統立てた課題教材の開発に努めたい		

(2) 道徳

目 標 : 人間尊重の自覚を高め、思いやりの心が深く主体的に行動できる生徒の育成に努める

取組内容(指標)	達成状況	
道徳の時間と各教科・特別活動・総合的な学習の時間及びその他の活動との関連を図り、生徒の内面に根ざした道徳性を育てる指導の充実をめざす	A	B +
より効果的で多様な指導法、指導内容、教材資料についての研究を進める	A	
結果と分析		
<ul style="list-style-type: none">・ 全校集会、学年集会での先生方の講話や、日々の生活指導、行事での感動体験を通して、多くの機会に生徒の内面を育てる指導がなされていた・ 道徳の教科書や指導書が整備され、生徒の実態に応じた教材を考えやすくなった・ 道徳の授業時間を恒常的に確保することができていない		
次年度への改善点		
自己中心的な言動を繰り返し、他人の気持ちを考える想像力の弱い生徒に対し、道徳の規範意識を芽生えさせるとりくみと、厳しい日々の生活指導とを連携させて継続していく必要がある。		

(3) 特別活動

目 標 : 自主的に活動でき、さらに協力しながら規律ある行動ができる集団の育成に努める

取組内容(指標)	達成状況	
学年行事、学級活動に全員で取り組み、共に支えあうような学級集団の育成に努める	A	A
部活動に生徒が主体的に活動できるよう推し進める	A	
生徒会活動・委員会活動を活発にし、生徒の自主性を育て、生徒会組織と学級との連携を密にする	A	
・		
・		
結果と分析		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校行事等では、各学年で特色を出し、事前の取組が活発に行われた。教師の指導のもとで生徒が積極的に活躍する場面が少しでも多くとれるよう努めた。 ・ 部活動では各顧問の指導のもと、各部長をリーダーとして自主的な活動ができるよう努めていたが、まだ不十分である。 ・ 生徒議会における議会運営を活性化するために、反省会などを持ち、リーダーの育成に努めた。 		
次年度への改善点		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自主的に活動できるリーダーの育成に努める必要がある ・ 他人の痛みやしんどさをわかり合える集団作りを、さらに進めていく必要がある 		

(4) 学校行事

目 標 : 周到な計画に基づき、充実した成果をあげる

取組内容(指標)	達成状況	
行事活動に積極的な参加ができるよう工夫を図る	A	A
地域の支援も含め、開かれた学校づくりの中で行事を進める	A	
実施する各行事において、成就感を持たせる工夫を図る	A	
行事を円滑に行うために、時間の有効活用を図る	A	
・		
・		
結果と分析		
生徒たちが積極的に参加できることを視野に入れ、地域との連携、周到な計画のもと保護者様からも行事に対する一定の理解が得られている中での実施が、充実した成果をあげることに結びついた。		
次年度への改善点		
時間の有効利用を図り、円滑に行事が行えるよう工夫を図る必要がある。		

(5) 総合的な学習の時間

目 標 : 「確かな学力」を身につけさせ、社会の変化に対応できる力を育む

取組内容(指標)	達成状況	
自ら課題を見つけ、学び、考え、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる	B +	B +
・		
・		

結果と分析

- ・ 1年生は 1学期は読み取り学習、2学期より講座別学習として、8つの講座を設け、授業や調べ学習を行った。パソコン学習では、1学期は基礎、2学期では基礎の定着を図る学習をした。
- ・ 2年生は 1学期は職場体験を実施した。2学期からは「地域学習 - 大阪」について各自がテーマを設定し、レポートを作成し、まとめと発表を行った。
- ・ 3年生は、卒業研究として、各自が設定したテーマに沿って資料を収集し、研究の概略と今後の課題を中間発表した。その後、最終的に各自がまとめ冊子を作成した。

次年度への改善点

新学習指導要領の総合的な学習の時間

(平成21年度～23年度) (平成24年度以降)

1年	70～100	50～65	50
2年	70～105	70～105	70
3年	70～130	70～130	70

の改訂から、今後の各学年の学習内容について考えていかなければならない。

3 . 生活指導の重点

目 標 : ・基本的な生活習慣を身につけさせ、集団の一員としての自覚を持ち、
 規律ある行動ができるようにする
 ・集団の和を大切にす豊かな心を育てる

取組内容（指標）	達成状況	
望ましい生活集団の確立のため、生徒一人ひとりの生活実態を把握し、計画的・継続的な指導に努める	A	A
生徒一人ひとりが集団の一員としての自覚を持ち、信頼によって結ばれた人間関係を育て、充実した学校生活を営ませる	A	
リーダーの育成に努める	B +	
・		
・		
結果と分析		
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりに対し、計画的・継続的な指導を行うなかで、正しい人間関係を基にした充実した学校生活ができるようになっている。 ・リーダーの育成が十分にできていない。 		
次年度への改善点		
<p>信頼されるリーダーの育成に努めながら、協力し助け合える集団を目指し、よりよい信頼関係によって結ばれた人間関係を育てる。</p>		

4 . 保健管理・指導の重点

目 標 : 基本的な生活習慣の確立と心身の健康の保持増進につとめる

取組内容（指標）	達成状況	
健康に対する意識を高め、自律的な生活態度を養う	A	B
環境に対する意識を高め、自らすすんで整備美化する態度を養う	B +	
・		
・		
結果と分析		
<ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろな機会を通して、生徒の心身の健康状態の把握をしながら保護者及び地域との連携をはかり、適切な助言や指導を行った ・ 班別清掃や全校一斉の全員清掃などの活動を通して、環境の美化をはかった ・ いずれも、まだまだ不十分であり、高めていく必要がある 		
次年度への改善点		
<p>ひとりひとりが健康な生活や環境の状態を意識し、自ら望ましい生活を実践するには、多方面と協力しながら指導を継続していかなければならない。</p>		

5 . 特別支援教育の重点

目 標 : 障害のある子どもたちが、まわりの子どもたちと共に学び、共に生活することを通じての地域社会で自立を旨とする教育を推進する

取組内容（指標）	達成状況	
特別なニーズのある生徒の自己決定権を尊重し、個々の状況に応じて、自立に必要な基礎的能力を養うため個別的指導を実施する	A	A
統合教育を推進し、障害のある生徒についての通常の学級での指導の充実に努める	A	
人権教育としての「障害理解教育」を推進すると共に種々の行事や学級活動を通じてインクルーシブな集団の育成に努める	A	
個々の障害の状況に応じて必要なソーシャル・スキルの獲得に努める	A	
自立活動の指導の充実に努め、個々の課題に対する指導を計画的に実施する	A	
・		
・		
結果と分析		
<p>今年度、指導の内容を点検し生徒個人の状況に応じた教材を整備した。また、5階支援教室を教科学習専用として3年生の入試対策に活用した。さらに、1・2年生については放課後、2階支援教室を活用して補習を実施した。</p> <p>保健体育、技術家庭、音楽を中心に支援担当教員による入り込みを強化した。</p> <p>1年人権教育において当事者である卒業生酒井健二さんをお招きして人権講話を実施した。また、各学級で障がいのある仲間についての理解を求める取り組みを日常的に続けている。全市合同行事への参加を通じて公共交通機関の利用について学んだ。また、自立活動の指導を通じて買い物、会話の指導を進めた。</p> <p>自立活動の指導については個々の状況に応じて計画的に適切に進めた。</p>		
次年度への改善点		
<p>近年、障がい観が大きく変化している。自立活動の指導においては国際生活機能分類（ICF）に基づいた新しい障がい定義に従いながら同時に、現実の個々の生徒のニーズにきめ細やかに対応するものを創造しなければならない。</p>		

6 . 研修の重点

目 標 : 生徒の実態や現在の教育課題など、ニーズに応じた研修を行う

取組内容（指標）	達成状況	
研修内容については、全教職員で共通理解を図る	A	A
校内研究授業を充実させ、指導力の向上に努める	A	
研究・研修の成果を生徒の学習指導等に生かすように努める	A	
・		
・		
結果と分析		
<p>定期の校内研修、学期ごとの公開授業、研究授業の実施、その後の研究協議会を通して共通理解を図りながら指導法の改善、向上、学習指導等に生かすよう努めた。</p>		
次年度への改善点		
<p>教育課題に応じた研修の充実を図る必要がある。</p>		

努 力 目 標

- ・ 教室・廊下を美しく保ち、細やかな心配りができるようになるう
- ・ 元気よくあいさつをしよう